

科目 No.454 リスク学事例研究6 リスクの回避と工学の役割	講義名： 4. 情報系リスクの回避・低減 講師名：山崎 博(SCE・Net)
講義概要	情報社会の到来と共に多くの新しいリスクが発生してきた。個人情報流出防止、ネット社会の情報管理、サイバーテロ対策など新しい工学的な手法が求められていることを解説する。
目次	1. 趣旨 2. 情報化社会を取りまくリスク 3. コンピュータウイルス 4. 内部情報流出とリスク対策 5. 個人認証とバイオメトリクス 6. 暗号技術 7. サイバーテロとリスク対策 8. まとめ
<p>インターネットの人口普及率は 60%を超え、全体がカード社会に移行するなか、新たな手口のサイバー犯罪が年々増加(年率 1.5 倍)し、企業活動や市民生活で情報系リスクが拡大している。パソコンの盗難、ホームページサーバーへの攻撃、クレジットカード情報の大量流出など事件が多発し、サイバー犯罪も愉快犯からお金目当ての確信犯が増え、様々な攻撃ツールがネットで流通しており、犯罪の手口がますます巧妙化している情報系リスクについて解説する。</p> <p>利便性と効率を追求してきた情報化社会で、これら情報系リスクを回避・低減する社会システム、法制度整備、技術開発、リスク教育など、今後、幅広い対応が求められる。</p> <p>さらに、情報ネットワーク社会では、国民生活や社会生活を支える国防、金融、産業、交通などの重要インフラへの機能不全、破壊を狙ったサイバーテロの脅威も懸念され、国家レベルの対策が求められる。講義では米国におけるサイバー演習、わが国におけるプラントへのネットワーク経由の模擬アタック実験の結果についても紹介する。</p> <div data-bbox="223 1209 1356 1926"> <p style="text-align: center;">プラントにおけるセキュリティ・リスクの構造</p> </div>	